

～～市民活動団体の活動内容～～

団体名（シネマクラブ「のだ・名画を上映する会」 略して「シネマクラブのだ」）

団体の活動内容

【すべて公開】

（１）団体の活動目的

70年代の青春時代、私は小さな映画館の暗闇の中で、どんな夢を見ていたのだろうか

映画は簡単に答を出さずに暗闇でじっくり深く思考させてくれます。テレビは表面的な情報のみで深みがない。説明過多で簡単に答を出し見る側を思考させません。安心感を永遠と流し続けます。良いのか悪いのか分かりません。そういう違いがあります。

映画は世界共通の映像言語です。映画を通して各国の暮らしや文化、人間模様を学べます。深刻な作品も笑える作品も、嘘の世界も本当の世界も、過去も現実も未来も、時間も自由に飛び越える。

17世紀のオランダが生んだ天才画家ヨハネス・フェルメール(1632～1675)の描いた実物サイズの絵はみな小さく驚くと言う。あの有名な〈真珠の耳飾りの少女〉キャンパスサイズ44.5×39です。それでも、今も生きているような透明感、無限の小宇宙が広がっている。

今年のキネマ旬報日本映画ベストワンの三宅唱監督『夜明けのすべて』は同じような雰囲気を持っている。デジタル時代にフィルム撮影を続けているのです。両者、言葉では説明できない普遍的な生を取り入れようとしている。そんな時代、社会を超えて残るそういった作品、映画に出会いたい。

（２）団体の活動内容（詳細）

映画を見たからと何が変わるのかと言われる。見ない人よりは少しは人間性が豊かになる

2024年6月2日(日)『川口由一の自然農というしあわせ with 辻信一』上映。中央公民館講堂

70年代より耕さず、肥料、農薬も用いず、草や虫を敵にしない「自然農」に取り組む川口由一さんの穏やかな生き方を学ぶ。野田市内、農家の高齢化などで農地を維持できない問題、そこに数々の開発が入り、畑、田んぼが減り続ける現状などの都市農業問題についても語り合う。

大型トラクター無くとも耕さずに無農薬、無肥料でも野菜がりっぱに育つことを改めて確認する。維持出来ないなら、出来ないなりに手間暇、経費減らし、農法なども変化して行くことも必要です。

2025年3月23日(日)『君の根は。大地再生にいとむ人びと』上映。野田市中央公民館講堂

植物とともに「生きた土壌」を守り育ていくこと、土壌を耕起し地表をむき出しにすることをせず、多様なカバー作物(被覆植物)を用いて、土壌の保全と作物の生産を両立させる栽培。家畜の力をも借りて植物がホリスティック(全体的)に調和し土壌を守りながら、リジェネラティブ(大地再生)が進み循環する環境が作り出されていく。川口さんのシンプルな自然農と違って、アメリカの広大な牧場での実践方法であったがとても参考になりました。

川口さんの畑も、アメリカの牧場も緑、緑して、草も野菜も花も、そよ風に揺られて心地よさそうに育っていました。大きな青い空の下で自然に抱かれ、草、動物、昆虫たちも含めお互いが助け合い共生している。川口さんも赤目塾の人たちも、牧場の人たちも穏やかで温かい表情が素晴しかった。

（３）団体としてPRしたいこと、その他

※団体ホームページ URL (<http://www.cinemaclubnodablog24.fc2.com/>)

「シネマクラブのだ」のホームページは自由に幅広く開放して映画以外の、地域の暮らし、まちづくり等の情報を掲載。街はNHK放送のドキュメンタリー72時間のように一人一人が主役です。街づくりは建物も風景も大事だが、より大事なのは一人一人がもっともっと個性を出して目立つこと、利己的じゃなく利他的に繋がり循環して流れて行くことが必要です。そういう映画会でありたいです。